

川づくり 清瀬の会

会 誌 第 43 号

2025 年 3 月 発行

発行・編集者 会誌編集委員会



活動写真

2024 年度下半期に実施した外来種駆除・河川清掃
・小学校と保育園に協力した川の観察会

撮影：柳瀬ゴロー
荒幡経夫

目 次

柳瀬川・空堀川の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・	荒幡 経夫	1
上・下流とはだいぶ違う河床整備工事（2023 年度事業） 多自然川づくり「バープ工法」って何でしょう・・・・・・・・	宮澤とよ美	5
柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介 ウナギ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	荒幡 経夫	10
清瀬を語る上で柳瀬川・空堀川は欠かせない 柳瀬ゴロー（TOKY0854 パーソナリティ）		11
令和 6 年 10 月から令和 7 年 3 月までの活動報告・・・・・・・・	荒幡 経夫	13
今後の主な行事予定・ご案内・事務局だより・・・・・・・・	荒幡 経夫	18

柳瀬川・空堀川の変遷

荒幡経夫

昔の柳瀬川・空堀川は、田畑や雑木林、草原の間を縫うように流れ、岸边にはホタルが飛び交い、川面にはたくさんの小魚が群れ泳いでいるのが観察できたそうです。

そんな自然豊かな川の風景が変わってきたのは、昭和 40 年頃からです。川から田んぼに水を引き込み、お米を育てていた農家さんは、水に浸かっていた足が赤くなり、秋になっても稔らず稲作を続けることができなくなると伝えています。

生活排水や工場排水が当たり前のよう流されていた川は、あつという間に汚染され悪臭を放ち、川全面が泡立ち細かい泡が雪のように舞っていたそうです。



悪臭を放ち泡立つ空堀川

最近の柳瀬川をよく見ると、足元の水中ではハゼの仲間が石から石へと渡り泳いでいて、石をひっくり返すとたくさんの川虫やエビなどがサッと四方八方に散って行くのが見られます。少し離れた所では、サギの仲間がウナギをくわえ、なかなか呑み込めずに持て余している様子は滑稽でした。早春にはマルタが産卵のために遡上し、秋にはアユが浅瀬で産卵し、ふ化した仔魚は海へと下り、春に成長して戻ってきます。

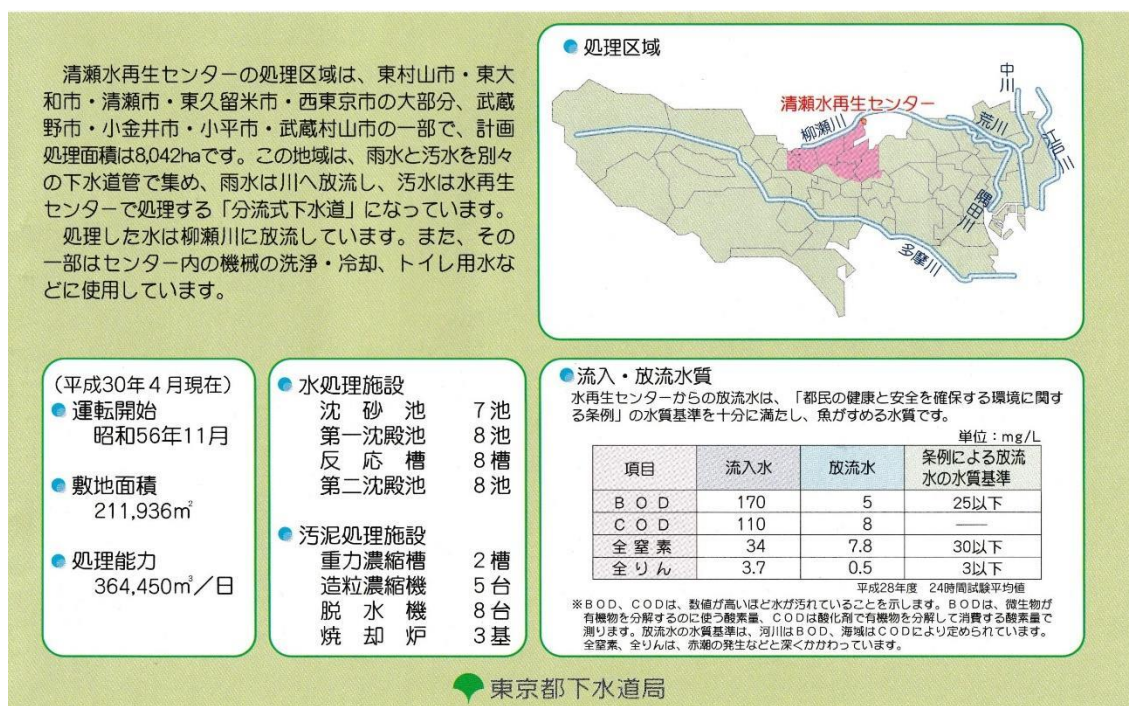
このように、川を生き返らすことができたのは、自治体や企業・市民の努力の積み重ねだと思いますが、それらの活動・事業を後押したのが、条例の施行や施設の充実が大きな要因だと考えます。

とりわけ大きな役割を担ったのが、水再生センターができたことです。

戦後の経済の発展は目覚ましく、人々の生活がどんどん豊かになっていきました。その反面、未熟なライフラインは河川をどんどん汚染していきました。汚水や生活排水がどんどん河川に捨てられていき、みるみる川は汚れ、泡立った水面は悪臭を放つ川へと変貌し、全国でもワースト 1 位に選ばれるほどの汚れた川になりました。

生物も住めないよごれた川に救世主として現れたのが昭和 50 年から稼働を始めた清瀬水再生センターでした。

微生物の働きを利用して1日に、5地区と、4地区の一部地域の汚水を合計36万トン処理する能力を持った施設でした。（平成29年度の実績23万トン）



※清瀬水再生センターの概略（東京都下水道局パンフレットから抜粋）

もう一つは、制度の制定が大きな役割を担ってきました。

・多自然川づくり基本指針

1990年（H2）に「多自然型川づくり実施要領」が策定され進められてきましたが、河床や水際の作りが単調で課題の残る工事が多く見受けられたため、2006年（H18）に新たに個別カ所の多自然作りから、河川全体の自然環境の充実を視野に入れた川づくりとして、「多自然川づくり基本指針」が策定されました。

「多自然川づくり」とは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいいます。

（多自然川づくり定義から引用）

・景観法

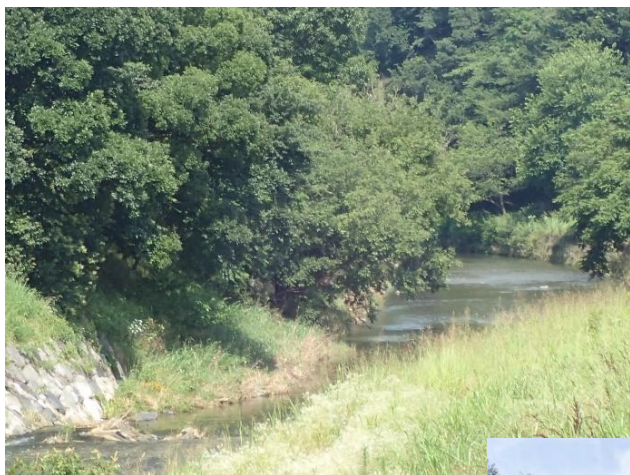
2004年（H16）に策定されました。我が国の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図

り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的としています。（景観法：第一章を引用）

・水循環基本法

2014 年（H26 年）に制定されました。水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進し、もって健全な水循環を維持し、又は回復させ、我が国の経済社会の健全な発展及び国民生活の安定向上に寄与することを目的とする。人の活動と環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環を考え、水循環の過程において、地球上の生命を育み、国民生活及び産業活動に重要な役割を果たしていることに鑑み、健全な水循環の維持又は回復のための取組が積極的に推進されなければならないこととしています。

（水循環基本法概要から一部抜粋）



緑豊かな柳瀬川



工事で壊されることなく保存された河畔林

このように、施設の充実や、法の施行が大きな成果を上げたことは間違いありませんが、その地域に生活する人々の努力も見逃すことはできません。

川を管理する管理者との折衝では大きな成果を生み出しています。

河畔林を残すための工事の見直し、魚が遡上しやすい落差工の工夫、植物が生育しやすい高水敷・低水護岸の造成の仕方、湧水が浸透しやすい護岸の工夫などを工事管理者と折衝を繰り返してきました。

市民による清掃作業や、水質調査・生物調査なども、河川の多自然を守るために大きな成果を生み出しています。



清瀬橋に造られた落差工



石田橋に造られた落差工



丸石を組んだ土の見える低水護岸



空堀川に隣接する河畔林の管理作業



回収したゴミを分別する



多項目にわたる水質検査

上・下流とはだいぶ違う河床整備工事（2023 年度事業）

多自然川づくり「バープ工法」って何でしょう

宮澤 とよ美

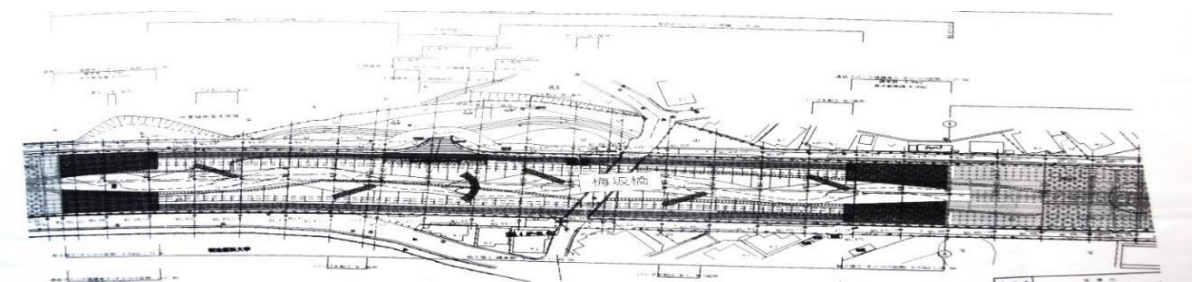
平成 28 年、時間雨量 50 mm 対応の河床整備工事が、空堀川最下流から始まりました。

そして、令和 5 年 9 月に梅坂橋上・下流 400m の工事が始まり、令和 6 年 6 月に完成いたしました。この区間に先立って、柳原橋上流から薬師橋少し下流までの 2 区間が、工事用搬入路の都合で工事（その 7）と（その 8）として、先に完成しておりますので、この親水階段前（その 9）が完成しましたので、柳原橋下の落差工まで整備工事は完成です。

今年度は、すでに西武池袋線鉄橋の少し上流まで（その 10）が工事中です。

さて、この工事区間は、親水階段もあり、大人子供にかかわらず、清瀬市民に大変親しまれている水辺で、長いこと環境学習の場であり、景観の良さから、柳瀬川回廊の始点でもあります。

右岸は都の保全緑地の斜面林と、左岸は明治薬科大学の花木を含む美しい緑に挟まれ、まさに水と緑の望ましい河川空間です。是非多自然川づくりをと繰り返し都へお願いをしてきました。設計のできた段階でコンサルさんから説明を受けた時、全長 400m の工事区間中に、梅坂橋上流に 2 か所、下流に 4 か所（下記の図面をご覧ください）バープ工法で改修されることを知りました。



空堀川河床整備工事（その 9）の平面図。「上流に向かって斜め線、あるいは親水階段前には流路断面一杯のバープ工が入ります」と説明がありました。（右：上流）

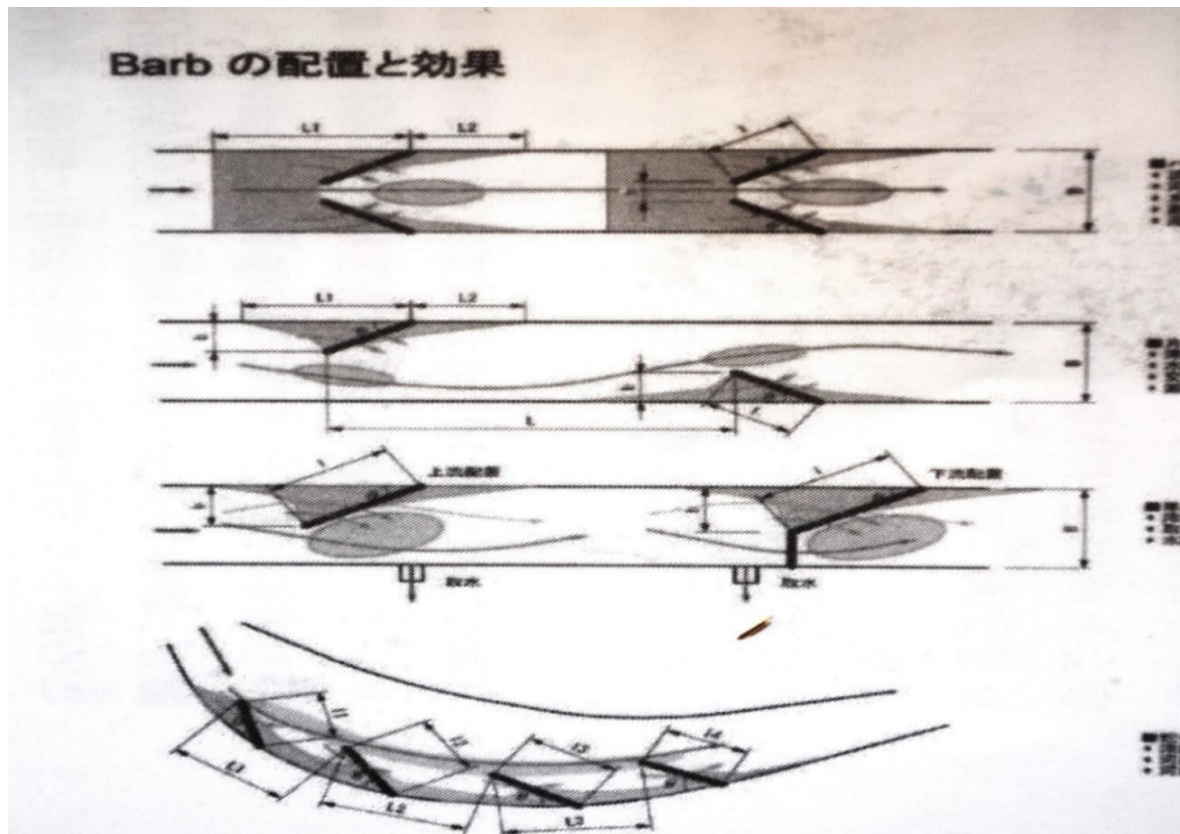
さて、あまり聞きなれないバープ工とはどんな工法で、多自然川づくりのためにどんな利点が生まれるのか興味津々でした。バープ工法は淵の杜に沿う柳瀬川に施工されていますが、空堀川にはどのようなバープ工法が、気になります。当会が大変お世話になり、ご指導をいただきました、国立研究開発法人 土木研究所の、吉村伸一先生や萱場祐一先生方が、中心になって実証された工法です。旧柳瀬川・空堀川合流点改修時、上流に吉村先生から落差工をバープ工法でとご提案くださいましたが、聞きなれなかったせいでしょうか、都に受け入れて頂けずとても残念な思いをいたしました。吉村先生が、清瀬市の河川工事のために種々「多自然川づくり」の例を、当会会誌「20 周年記念号」にご寄稿くださいました。その中から 45 頁に「最近の新しい試み、バープ工」を理解しやすくご説明くださいました。次に転記をさせていただきます。

Barb:[釣り針・矢じりなどのあご]を意味する英単語。

Barb 工：水通し部を持った上向きの横工

- ◆河岸に対して 20～30 度の角度で設置される、高さの低い水制状の構造物。
- ◆バーブ工は川幅全体を仕切らず口部（水通し）を持つ帯工と考えてよい。
- ◆水制工は洪水コントロールを目的としているが、バーブ工は川的作用を利用して微地形を生み出すことを目的としており、河床から数十 cm 程度の高さで設置する。
- ◆具体的な効果としては、水際部への堆積作用を促す、河道中央部に淵を形成する、滯筋を形成する。河床低下を抑制するなどがあげられる。

Stream barbs：北米では、自然河岸防御や生態的に効果的な工法として。Stream barbs という言葉が使われている。



それぞれ河川形態の違いに沿ったバーブ工を、川の流れに対して、河岸から上流側に向けて突き出して設置する、高さの低い水制の一種で、流れに運ばれてくる砂を溜めて寄り洲を形成することを目的とした河川工法です。

この区間の低水護岸は、人工的なブロック等は張らず、高水敷は、深く掘りコンクリートを敷き、石を詰めたかごマットで根固めをして、護岸の補強をして、覆土をします。



整備工事中の梅坂橋上流と下流です。これからどう変化するのでしょうか



階段上流の雨水口下、ブロックでの高水敷工事 親水階段下のコンクリートで固めた高水敷工事
護岸が完成すると、バープ工の設置作業が始まります。

一抱えもある大きな石が運び込まれ、それらは強硬な針金で結び付けられています。



しっかり結び合った石を、設計図の通りに2列に敷かれます、その上に1列乗せ、合わせて3列、低く設置し、流れに影響を与え、土砂をバープ工の上に捕捉してその下流に淵ができるように、河川地形をコントロールすることを目的とした工法です。

(バープ工は、左右の低水護岸のつけねから上流にむけて置かれます。)





2本目は左岸、橋近くから上流に向けて。3本目は右岸、橋上流の雨水口近くに上流に向けて



下流の4本目は親水階段前 流路断面一杯に下流に向けて〰型に作ります。(弧の中側が下流を向く)

5本目と6本目は、ほぼ1本目と2本目と同じです。6月末（その9）の工事完了。8月29日台風10号による増水。それぞれつながれたバープ工は怎么样了。下流の6本目から見てみます。昨年暮れから今年になって、雨らしい雨が降らず、流れを心待ちするものに渇水は残念です。



10号台風増水



6本目、見事に上流から写すと沢山の砂礫を受け止めています。バープ工を挟んで下流に深い淵ができています。魚がいるのでしょ多種の水鳥が見られ、カメラマンが狙っています。



5本目の先は淵があったように大きく湿っている。4本目は流路一杯に湾曲したもの、右岸側に崩れがあり、そこから水は流れ抜けた様子。この湾曲 全体をよく見ると中央が低く設定されている。



3本目、雨水口近くのバープ工は、下の2列は砂礫に埋まり上1列だけが見える。橋をくぐって2本目、この辺りは流路幅1ばいに礫河原になり、埋まってしまったのかバープ工はよく見なくて解らない。



バープ工1本目から下流に向かい、大小の石河原となり沢山のイネ科植物、オランダガラシ、オオカワジシャ、ギシギシ、カラシナ等湿地性の草本が繁茂。バープ工は基礎の2列は埋まってしまった物が多いのか、上の1列の上部だけが確認できるものが多い。

バープ工法は清瀬の夢でした。令和5年度河床整備工事としてバープ工法が取り入れられておおよそ10か月、豊かな流れがあればどのように変化したでしょう。一番下流のバープ工は見事に淵を作り、生き物が見られます。水際に草が繁茂し、バープ工によって変化に富んだ流れが定着するものもそう遠いことではないのではと思います。

柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介

荒幡 経夫

ウナギ



ウナギ目ウナギ科に分類され、世界中には 16 種類が知られていますが、日本にはウナギとオオウナギが棲息しています。

ウナギは、北海道以南に棲息し、湖・池・沼・川の下流から上流部まで様々な場所で生活しています。夜行性で、昼間は穴や岩などの隙間に身をひそめ、夜間餌を求めて活発に行動します。餌は、食欲でエビ・カニ、魚、貝、水生昆虫などなんでも食べます。

成長過程が特殊で、産卵はマリアナ諸島西方海域であることが東京大学海洋研究所の塚本教授が明らかにしています。ふ化した仔魚は、レプトセファルスと呼ばれる平べったい柳の葉のような形から、シラスウナギへと容姿を変え、秋頃に日本沿岸へ泳ぎ着き、栄養を蓄え春頃から河川を遡上して淡水の生活へと変えていきます。

5～10 年くらいで 60～100 cm に成長し、産卵のために川を下り海に出ると産卵場を目指して長い旅へと出ていきます。

子供の頃よくウナギを捕った清瀬在住の会員の方の情報では、細長い竹かごに餌を入れて、ウナギが潜んでいそうな場所に夜仕掛け、翌日かごを引き上げるとウナギが捕れていたそうです。

ウナギは養殖魚として有名ですが、始まりは明治のころに浜名湖で大々的に養殖されるようになり、かば焼きや白焼きなどの食文化が発展しました。

柳瀬川での生物採集では、なかなか姿を見ることができませんが、令和 3 年に川べりでダイサギが、なかなか呑み込めずにウナギを持て余している光景を見たことがあります。めったに見ることができませんが、餌が豊富な柳瀬川ですからきっと巣穴を作って潜んでいると思います。

清瀬を語る上で柳瀬川・空堀川は欠かせない

柳瀬ゴロー (TOKY0854 パーソナリティー)

『ゆったり清瀬』という、清瀬の情報だけ発信する番組を担当するようになり 4 年目。これまで取材重視で清瀬の町を飛び回っている中で、市民の方とお話しをする機会が多いです。

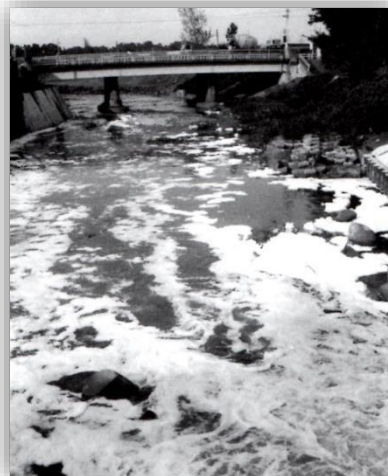
会話の中で、その方が清瀬育ちということが分かると「何小何中出身ですか？」など、ご迷惑にならない程度に清瀬の思い出を聞き出そうとします。現在はアイラシティが建っている場所にはかつて、尾張屋〜ニチイ〜サティと名称が変遷したショッピングセンターがあって、屋上の遊具や、ラジオのサテライトスタジオを覚えているかいなかで年代が判り、小金井街道沿いにあった「清瀬映画」や、中森明菜さんの親族が経営していた「ミルキーハウス」のことなど、尽きません。

清瀬の昔話を語り合う時、必ず話題になるのが柳瀬川・空堀川のことで、人生の先輩方からは、金山橋が当時は木製で、ところどころ穴が開いていて怖かった、金山橋の上流に築があってウナギも獲れたなどのエピソードをお聞きます。以前『人生の天気図』にご出演になった所沢・柳瀬地区育ちの松本明伸所沢市議会議長から「下宿の子とは柳瀬川挟んで石投げ合い、よく喧嘩したよ」というエピソードをお聞きしていて、その後下宿の方にも「柳瀬川合戦？」のことお聞きしたら、「下宿も柳瀬もやんちゃだったからねえ」と苦笑いしておられました。



昭和 45 年頃の金山橋

私が清瀬・台田団地に田無から引っ越してきたのが1979年の春でした。窓を開ければ柳瀬川が見え、ところどころ泡が立ち、汚臭も団地周辺漂っていました。今では考えられない「汚れた川」でしたが、それでも愛着はありました。遊歩道や河原で「悪さ」していた高校時代の罪滅ぼし的に「川づくり・清瀬の会」に入会し、清掃活動を行っていることも、きっと愛着の表れなのかもしれません。母が台田団地の中にあったシズオカヤへやって来た1974年当時はまだ丈が小さかった桜の木々も、1979年には立派になっていて、桜並木は台田団地住民だけに限らず、清瀬市民の「春の楽しみ」になっていたのです。



昭和 60 年頃の柳瀬川



平成 28 年 4 月の台田桜並木

皆さんご存知の通り、その後柳瀬川は清流に戻り、桜並木と共に清瀬市を代表する「無くてはならない」存在になりました。空堀川も柳瀬川同様に「綺麗な川」となりました。私だけに限らず清瀬育ちの方々にとって柳瀬川・空堀川の変遷は、自身の成長と重なるのでしょう。皆さん柳瀬川・空堀川を語る時のまなざしは童心に還っているかの如く、とても澄んでいるのです。近年清瀬へ来られた方からも、美しい自然が子育てに良い環境だから清瀬へ引っ越してきましたと聞いたことがあります、と

りわけ柳瀬川・空堀川の存在が決め手になったことも強調していました。

清瀬市民にとって柳瀬川・空堀川は欠かせない存在です。今後、環境の変化などの影響で、現在の姿を維持できるのか、まったく先が読めない状況ではあります。しかし、次代の担う清瀬の子どもたちは、我々以上に柳瀬川・空堀川について学び、愛着は深まっていると確信しております。きっと今の子どもたちが大人になった時、柳瀬川・空堀川はもっと素敵な川になっていることでしょう。

◆令和 6 年 10 月から令和 7 年 3 月までの活動記録◆

【令和 6 年 10 月の活動事項】

2 日 : どろんこ保育園観察会:田島・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

会員からは中村吉成さんが参加。園児 18 名が参加、川に棲む生物の紹介と、魚のふれあい体験を実施した。採集した生物:ウキゴリ・オイカワ・カワムツ・カマツカ・アユ・マハゼ・ギンブナ・シマドジョウ・アメリカザリガニ・ミシシippiaアカミミガメ・コヤマトンボのヤゴ・カワリヌマエビ・スジエビ・カゲロウの仲間・トビケラの仲間。



魚の紹介



魚との触れ合い



海から遡上してきたマハゼ

4 日 : 環境・かわまつり実行委員会に出席:柳瀬

来年度も実施することを確認する。

11 日 : 幹事会:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

15 日 : 外来種駆除:田島・戸塚・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

参加者は、会員が熊谷さん、中村吉成さん、一般からは 1 名、市役所から 2 名の方々に参加して頂いた。例年同様、追い込み網を使い 4 回捕獲を試みた。ブラックバス 2 尾 (30・24 cm) オイカワ 2 尾 (11・10 cm) を捕獲した。



アミを設置・手前が袋網



追い込んでいる所



捕獲したブラックバス

16 日 : 市長との懇談会:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

柳瀬川での釣りの有料化・総合学習で使用している手網の補充について・金山公園池の外来種駆除・緑の行政について、意見交換した。

16 日 : 柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加:宮澤・荒幡

柳瀬川の金山橋から上流・空堀川三郷橋から上流・馬頭橋下流子供の水辺・五中橋にある整備した親水広場・野山北公園の源流部の見学を実施した。

29 日 : 柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加:宮澤・荒幡

川の評価シートについて議論する。

【11 月の活動事項】

1 日 : 幹事会:田島・戸塚・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

3 日 : 柳瀬川清掃:戸塚・宮澤・小西美香・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

会員からは中村吉成さんご家族・古谷さん・中村和輝さんが参加。一般からは 2 名が参加。清瀬の一斉清掃に合わせて、金山橋から台田運動公園前までを清掃する。バーベキューをやっている人達に、当会で作ったゴミ持ち帰りのチラシを配った。直火やごみの投棄が確認された。集めたゴミの総量は約 450L だった。



ゴミの回収作業



大雨の後、浮き上がった護床



回収したゴミ

15 日 : 河川改修工事説明会出席:宮澤・荒幡

清柳橋工区護岸工事の説明会で、隣接ビオトープの保護を考慮した工事説明を聞く。

24 日 : 空堀川清掃:田島・宮澤・新井・柳瀬・荒幡

参加者は、会員が西山さん親子、中村千明さん親子、中村和輝さん、星野さん、高橋さん、一般からは 2 家族含めて 10 名の方々に参加して頂いた。清掃範囲は上流前原橋～下流新合流点まで、総量約 770L のゴミを回収した。他に剪定枝、護岸保護マットは回収できなかったのが現地に残してきたが、後日東京都に回収して頂いた。



ペットボトル 130L (17%)



缶類 60L (8%)



ビニール類 90L (11.5%)



トレイ類 90L (11.5%)



工事ゴミ 100L (13%)



その他 300L (39%)

25 日 : 活動センター移転説明会に参加：田島・新井・柳瀬・荒幡

市からは移転ありきの進行から始まったので、多くの参加団体から事前説明の不十分なことや、移転先での会議室利用に十分な対応がなされていないことなどが追及され、なかなかまとまらず、参加者から次回開催を要望して閉会した。

26 日 : 清明小学校課外学習協力：柳瀬

3 年生の学習協力で、柳瀬川の環境について質疑応答にこたえる。

【12 月の活動事項】

1 日 : 植栽地管理：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

参加者は、会員が高橋さん、古谷さん、星野輝子さん玲子さん、菅原さん、大室さん、中村さんご家族、友野さん、西山さん親子、木村さん、一般からは 2 家族 4 名の方々に参加して頂いた。電線に掛かっていた 10m ほどのクヌギを間伐、落ち枝を拾い、全体の剪定と、実生木の処理を行った。



道路川がスッキリ



落ち葉掃きのお手伝い



お楽しみの鍋

3 日 : **柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加：宮澤・荒幡**

空堀川上流、東大和市の東芝中橋から清瀬市前原橋までの水流状況の視察に参加する。

12 日 : **リモート会議参加：荒幡**

当会が参加している新河岸川流域川づくり連絡会と野川流域連絡会との交流会実施にあたっての事前打ち合わせに参加する。今回は、川づくり・清瀬の会が地元の河川を案内することに決定する。詳細については今後打ち合わせを実施する。

13 日 : **幹事会：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡**

15 日 : **川でつながる発表会に参加：宮澤・柏崎・荒幡**

新河岸川流域川づくり連絡会が主催する発表会で、事務局は国土交通省荒川下流河川事務所・流域治水課が務めている。

午前中は、白子川水系の大泉井頭公園と谷戸のせせらぎ公園を見学する。

午後は、地域中学校・高校・大学生による、水質調査・水生生物調査・河川における環境学習報告などの研究発表を視聴した。



大泉井頭公園



白い所が湧水



谷戸のせせらぎ公園

23 日 : **河道内樹木伐採下見：宮澤・荒幡**

空堀川前原橋から上流大沼田橋間の樹木伐採の下見を実施する。多自然川づくりの観点からできるだけ残すように要望するが、地域住民からの要望もあり、ほとんどの樹木が伐採される予定。

【令和 7 年 1 月の活動事項】

7 日 : **活動センター閉鎖説明会：柏崎・新井・荒幡**

今回の説明会で再度閉鎖の確認をする。活動センターの移転は 4 月/末から 9 月/末に変更、アミューで提案されていた小部屋二つが一つに改装され大部屋になる。駐輪場・駐車場は無い。使用している 2 台の小屋は移動先が用意されている。

10 日 : 幹事会:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

18 日 : きよせの環境・川まつり実行委員会に出席:柳瀬ゴロー

ガサガサ体験を午前・午後に実施できないか検討。参加申し込みは 3/18 日まで。

【2 月の活動事項】

14 日 : 幹事会:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・荒幡

18 日 : きよせの環境・川まつり実行委員会委員会出席:柳瀬

27 日 : 柳瀬川・空堀川流域連絡会出席:荒幡

空堀川の水がなぜ減少したか、水を増やすためにはどのような試みが必要か地域ごとに協議した。

28 日 : 緑の審議会出席:宮澤

名木の管理について審議する。

【3 月の活動事項】

14 日 : 幹事会:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

27 日 : きよせの環境・川まつり実行委員会出席:柳瀬

28 日 : 会誌製本と総会資料印刷:田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

会誌の製本、総会資料の印刷と製本、会員及び関係機関への配布作業を実施する。

◆今後の主な行事予定◆

- ・ 4 月 19 日（土）：総会開催（清瀬市民活動センター） 14:00 開催
- ・ 5 月 11 日（日）：植栽地の樹木管理（明治薬科大学前・三郷橋） 9:00 集合
- ・ 5 月 25 日（日）：市内一斉清掃・柳瀬川河川清掃（台田運動公園） 9:00 集合
- ・ 6 月 1 日（日）：全国一斉水質調査（事務局又はお近くの幹事にお尋ねください）
- ・ 6 月 29 日（日）：空堀川河川清掃（梅坂橋） 9:00 集合

◆ご案内◆

川づくり・清瀬の会活動の様子、予定など、公式 Facebook ページや公式 X(Twitter)でお知らせしています。ぜひご覧ください。お持ちのスマホをカメラにいただき、かざせば読み込みます。パソコンお使いの場合は「川づくり・清瀬の会 Facebook」「川づくり・清瀬の会公式 Twitter」で検索してください。

活動予定につきましては、コミュニティ FM 放送局 TOKYO854 くるめラ (85.4MHz) 『ゆったり清瀬』（毎週月曜日 12:00-12:55 再放送毎週火曜日 06:00-06:55）でも告知しております。



公式 Facebook ページ QR コード



公式 X(Twitter) QR コード

◆事務局だより◆

2024 年度は大きな事故もなく、予定した活動はすべて実施することができました。

2025 年度は、例年実施している川清掃・生物調査・河畔林の育成・水質調査などに加え、小学生・保育園生・一般の方々を対象にした生物観察会に力を入れて実施していきたいと考えています。

河川工事は、柳原橋上流・西武線鉄橋下から前原橋の区間を予定しています。今までのように、河川管理者と議論を重ね時間はかかりますが、昔のような多自然豊かな川に育てていきたいと考えています。

長年活動してきた台田運動公園前の河原が、埼玉県南部漁協管理による有料釣り場になってしまいました。市民の遊び場・憩いの場が大人の遊び場になってしまったため、新しい活動場所を探す予定です。

今後も、会員の皆様の増々のご支援と、ご協力をよろしくお願いいたします。

川づくり・清瀬の会

TEL : 042-493-7864 事務局：荒幡経夫